



東京部会(第94回)	
日時:	2017年9月9日(土) 15:00-17:30
場所:	慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室
参加者:	[順不同・敬称略] 篠原総一(京都学園大学)、加藤一誠(慶応義塾大学)、鈴木深(東京証券取引所)、岡部ちはる(東京証券取引所)、杉田孝之(千葉県立津田沼高校)、杉浦光紀(都立秋留台高校)、岸香おり(ICU高校)、鍋島史一(教育実践研究オフィスF)、三枝利多(目黒区立東山中)、升野伸子(筑波大学附属中)、小谷勇人(春日部市立中野中)、落合隆(神奈川県立相模原青陵高校)、金子幹夫(神奈川県立平塚農高初声分校)、後藤洋政(慶応義塾大学)、絹川温子(京都学園大学)、新井明(上智大学非常勤講師)、以上16名。
<p>(1) 夏の経済教室の総括報告と検討を行った。</p> <p>東京証券取引所の鈴木深氏と岡部ちはる氏より、本年度の夏の経済教室の詳細なアンケート集計に基づいた総括が報告された。</p> <p>申し込み数は、大阪が97、79、計176で昨年比-36、東京高校が172、146、計318で前年比+8、東京中学が167、159、計326で前年比+111、名古屋が42、53、計95で前年比-17、全体で195人、前年比+66人となった。大阪は台風の影響で減少、東京はお盆休み中にしたのでお増加、名古屋は日程変更もあり参加者確保に苦戦したとの総括であった。</p> <p>内容では全講師の60%以上が「大変参考になった」「参考になった」と評価され、実践報告では好意的意見が多かったとのことである。また、専門的知識を求める声と、基礎的な内容を求める声が多数あり、参加者の意向の違いを浮き彫りにした記述目立った。これは参加者が、3回以上のリピーターが全体の約4割、初めての参加者も約4割と二極分解していることのあらわれと見ることはできるのである。</p> <p>検討では、講義のクオリティと評価は別であること、講義に対する評価の違いは参加頻度や教員経験年数によるクロス集計をすることでより明確になるとの指摘があった。また、今後の方向として、初参加者をターゲットにする内容にしてゆくのか、継続的な参加者の要望に応じてゆくか、教室の対象の再検討が必要との指摘があった。本日の資料ももとに、今後、寄せられた要望のさらなる分析を踏まえて、次年度の取り組みをすすめてゆくことになった。</p> <p>(2) 主権者教育研究グループの報告と冬の経済教室の準備を行なった。</p> <p>杉田先生(津田沼高校)より、午前中にネットワーク東京事務室で行われた主権者教育研究グループによる取り組みの概要が説明された。</p> <p>ついで、落合先生(相模原青陵高校)と新井より、全国公民科・社会科教育学会授業研究委員会、東京証券取引所との共催の「冬の経済教室」に関する企画内容の紹介があった。講演講師、坂井豊貴慶応義塾大学教授、発表者、塙枝里子先生(都立府中東高)、大塚雅之先生(大阪府立三国丘高)、竹内大輔先生(日高町立日高中)の三名が確定して、タイトルや内容はこれから詰めてゆくことなどが紹介された。</p> <p>検討では、なぜこの集いを共催で行うのかの趣旨の説明をしっかりと行うこと、参加された先生方がこの会から何を持って帰ることができるのか、明確にした呼びかけ、プログラム、内容の方向付けが必要との要望がだされた。この要望を踏まえて、次回東京部会で内容を確定して、チラシや案内など具体的準備に入ることとなった。</p> <p>(3) 杉浦光紀先生(秋留台高校)の授業「労働の権利と労働問題」の検討を行った。</p> <p>報告されたのは、エンカレッジ・スクールの高校三年生「現代社会」における実践である。就職希望者が多いこと</p>	



も踏まえて、7月に2時間の「労働法は誰の見方か」のテーマでの学習を行った報告である。

授業は、1時間目に、身近な労働問題クイズからはじめて、ケーススタディ「コンビニのレジ打ち」(レジで1万円足りなくなり、連帯責任で給与から差し引く、いやならやめると言われたバイトの事例)を行なわせ、検討をさせ、労働法の意義を確認する。2時間目に、ケーススタディ「突然の解雇」(有休をとりすぎると解雇されそうになった事例)をもとに、厚労省の資料をもとにアドバイスを考えさせ労働法による問題解決を学習する、というものである。授業の結果、生徒は労働法の存在を知り、自分の体験を振りかえり、これからの対処法について学んでいったが、逆に、労働法を知ることによって逆に行動に「重り」がついてしまったとした生徒もでたこと、授業評価の点での中途半端さが課題として浮かび上がったという報告がされた。また、ここから生徒の関心と理解度を踏まえて「実学的・体験的・印象深い学び」の可能性が出てきたのではないかというまとめがあった。

検討では、ケーススタディのストーリー性をこれまでの生徒の労働に関する学習を踏まえて膨らませることができるのではないか、逆にケーススタディ後の振り返りからもっと学習が広がるのが可能になるのではないか、話し合いの時に根拠をもって発言させるためには指導の観点も明確にもったパッケージ化されたプランが有効、ケーススタディの内容は判例を踏まえて作成する必要があるのではないか、生徒の自己評価は5段階ではなくS,A,B,Cの4段階にするとよい、などの指摘がなされた。総体として、意欲的で生徒の実態に合った興味深い授業という高い評価がなされ、今後のさらなる実践への期待が寄せられた。

(4)今回は、初参加の先生も含めて熱心な討議がされた。来月も土曜日設定なので、さらに多くの先生方の参加を期待したい。(記録と文責:新井)

次回の開催予定: 10月14日(土)15:00~17:00。会場は慶応義塾大学三田キャンパス研究棟446会議室。冬の教室、来年三月のシンポジウムの準備、教材の検討など。なお、慶応大学の会場には受付に断らずに直接行ってほしいとの要請がされている。

11月の予定:11月28日(火)19:00~21:00。会場は慶応義塾大学三田キャンパス研究棟446会議室。